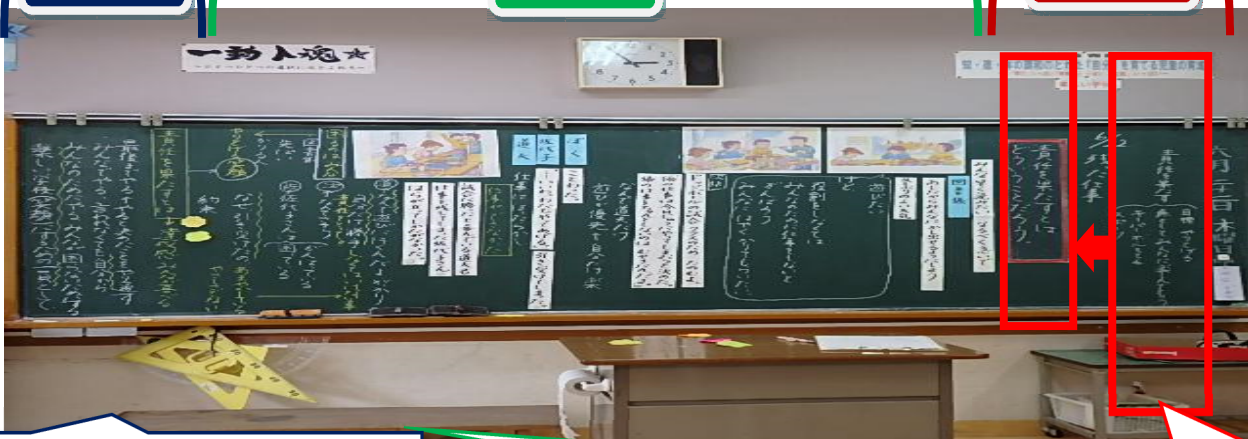


●指導の実際

終末

展開

導入



【資料分析】

導入でもった課題「責任を果たすとは」について、終末で再度確認し、資料から離れて自分の生活につなげ、ねらいに迫った道徳的価値について考えさせた。

【各領域で培った表現力】

腹がたって仕方がなかった「ぼく」の気持ちについてワークシートに記入し、自分の考えをもたせた後、ワークシートを交換し、友達の考えや新たに気付いたことを書き込ませた。

【実態把握】

【有機的な関連】

【体験活動】

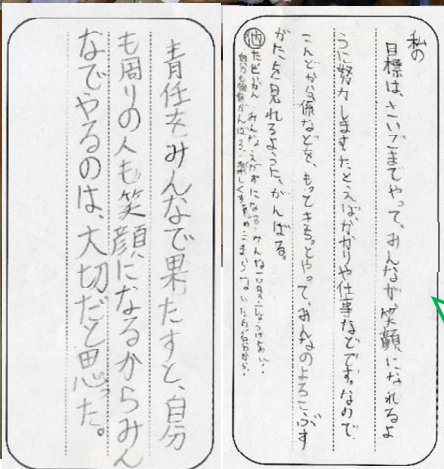
委員会や運動会の係活動での役割を想起させ、「責任を果たすとはどういうことだろう」と課題を設定した。

【資料分析】

根拠を問う発問等で道徳的価値に迫っていった。

【有機的な関連】

「Happyの木」(教育活動全体を通じて道徳性を養うため、児童や教職員が児童や学級のよさを評価し、付箋に書いて渡す取組)を紹介し、学校生活と道徳の時間を結び付け、自分事へと返していった。



【各領域で培った表現力】

問題解決のための「考え、議論する」場を位置付け、道徳的価値について児童一人一人が納得解をもつことができるようにした。

【各領域で培った表現力】

ワークシートへの記入、交換、意見交流により、道徳的価値を深めた。

成果と課題

- 課題設定である「責任を果たすとはどういうことか」について常にこだわりながら授業を進めたことで、児童はじっくり考えながら自分の考えをもち、交流することができた。
- 児童の振り返りには、「責任は自分のためでもあってみんなのため」「みんなのためにやらなければならないことをさいごまでやる」「やりとげたらきっとみんながえがおになる」など導入時よりさらに深まった考えで、本時内容項目「C16 よりよい学校生活、集団生活の充実」に関連した内容を書くことができていた。
- 概ね道徳的価値については導入時で気付いているので、指導者は本時で更に何に気付かせて、何を深めていくのか明確にもっておく必要がある。
- 問題解決に向けた交流の時間を十分に確保し、交流の場で議論した内容を板書に分類、整理して残すことで、児童に語らせながら、全体の考えを更に深め、道徳的価値に迫る必要がある。